

株式会社 中外技研

主たる製造品目

- 一般工業用 ● 洗淨剤・酸洗剤
サビ取り剤・防錆剤
- 塗装関連 ● **塗装剥離剤**
塗装ブースクリーナー
- カーケミカル ● カーシャンプー・ワックス類
- その他工業品 ● 鉄道車両用洗淨剤
製紙用薬剤（抄紙工程）
- 化粧品 ●



自社ブランドの化学工業薬品の製造販売を行なっています。
顧客からの開発依頼を受けて製品開発を行なう事が多く、
他社既存品との差別化を図る事で、顧客満足度の高い商品を提供しています。
また既存製品では塗装関係の塗装剥離剤・塗装ブースクリーナー等、
特徴ある製品についての販売・開発に注力しています。



【所在地】〒543-0001
大阪市天王寺区上本町5-2-11
上六新興産ビル3F

TEL : 06-4305-7851
FAX : 06-4305-7852



塗装剥離剤

製造発売元 株式会社中外技研

〒543-0001

大阪市天王寺区上本町5丁目2-11

上六新興産ビル3F

TEL 06-4305-7851 FAX 06-4305-7852

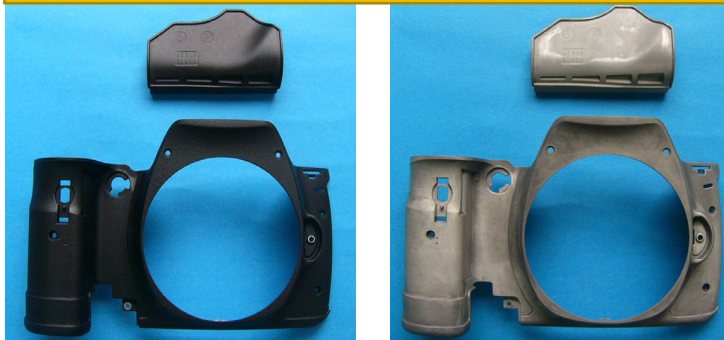


塗装剥離剤とは

- ◆ さまざまな条件で硬化した塗料(塗装膜)を、再度溶解または母材から剥がす(剥離)薬品の総称。塗装剥離剤の状態は液体(一部ペースト状)
- ◆ 塗装剥離剤を使用する主な用途
 1. 塗装不良となった製品の塗装剥離
 2. 塗装治具・ハンガーに付着した硬化済み塗料の剥離
 3. 塗装場所の周辺設備やスノコなどの剥離や洗浄
 4. その他(塗装ガンなど塗装用具)

剥離前後の写真

製品の剥離(素材:マグネシウム)



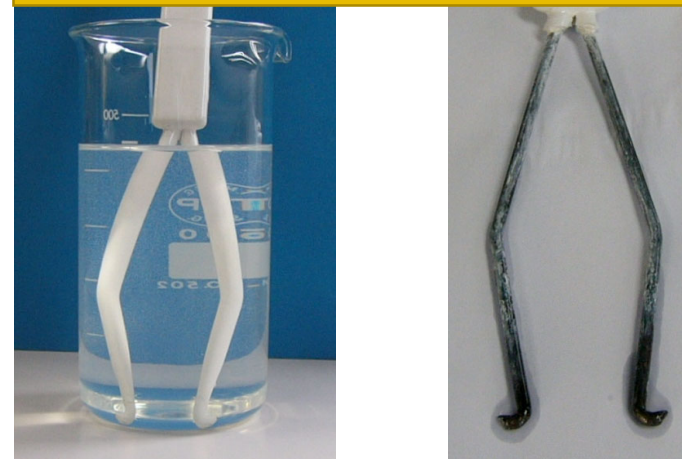
塗装治具の剥離(素材:鋼製)



塗装治具の剥離(素材:樹脂製)



塗装ハンガーの剥離(素材:鋼製)





塗装剥離剤の種類

◆ 塩素系剥離剤(塩化メチレン系)

- 使用方法: 基本的に常温で使用する。(沸点約40°C)
- 液性: アルカリ性・中性・酸性(塗料及び剥離対象物の材質によって選定)
- メリット: 剥離性能が高く引火性がない。
- デメリット: 廃水規制等が厳しく、水洗時に高度な廃水処理設備が必要となる。
(国内法規制:労働基準法、労安法、PRTR法、化審法、水質汚濁防止法、大気汚染防止法など。)

◆ 非塩素系剥離剤(ノンメチ系)

- 使用方法: 主に加温して使用する。(常温~90°C程度)
- 液性: アルカリ性・中性・酸性(塗料及び剥離対象物の材質によって選定)
- メリット: 水洗時は比較的簡単な廃水処理設備で対応出来る。
- デメリット: 剥離性能を上げる為に、一般的には加温設備が必要となる。

❖ 各種の法規制や環境負荷の観点から非塩素系剥離剤が主流となっています。



非塩素系剥離剤の選定方法

1) 剥離対象物の材質により選定します。(推奨されるもので例外もあります)

- ◆ 鉄鋼類→ アルカリ性タイプ
- ◆ ステンレス類→ アルカリ性・酸性タイプ
- ◆ アルミニウム類→ 酸性・中性タイプ
- ◆ 銅・真鍮類→ 酸性・中性・アルカリ性タイプの一部
- ◆ マグネシウム類→ アルカリ性タイプの一部
- ◆ 樹脂類→ 樹脂に対する影響を確認して決定します。
- ❖ 中性タイプはマグネシウム類以外の金属・一部の樹脂に使用可能ですが、剥離性能は弱い傾向になります。

2) 塗料や対象物(製品・ハンガー等)の種類により選定します。

- ◆ 実物やサンプルをお預かりして弊社試験室で剥離テストを行ないます。
- ◆ テスト結果から剥離剤の種類・時間・温度等を提案します。

非塩素系剥離剤の使用方法

剥離方法	浸漬法(対象物をバスケット等に入れて浸漬します)
剥離槽の材質	鋼製またはステンレス製
剥離剤濃度	一般的には原液使用
剥離温度	常温～90℃程度(常温でも加温して一定温度が好ましい) 加熱方法はスチームや電気ヒーター等
剥離時間	30分～数時間程度(対象物により異なります)
後処理	剥離槽から取り出した後、高圧水やブラシ等で塗膜残さを除去します。除去しきれなかった場合は再度浸漬します。
備考	剥離槽に溜まった塗料カスは定期的に除去します。 剥離槽にはフタをするか蒸発抑制剤を使用します。

代表的な製品

	品名	pH 1%水溶液	特徴
アルカリ性	RA-540	12.0	性能とコストを考慮した標準品
	RA-500	12.0	マグネ・銅・真鍮に対応した強化品
酸性	RS-600A	2.2	アルミ用(素材を侵さない)
中性	RN-100	6.9	安全性と環境負荷低減品

- ❖ 全ての製品が消防法危険物・毒劇物取締法
・PRTR法に非該当



まとめ

- 塗装剥離についてトータルでサポートします。
 - 1) 各種法令を遵守し、人にやさしい作業環境
 - 2) 剥離剤の選定(性能向上・安全性・環境負荷の低減など)
 - 3) 最適な剥離設備(サイズ・加温設備・バスケット等)
 - 4) 剥離剤を効率的に使用する作業方法(液のへたり防止など)
 - 5) 剥離後の対象物の後処理方法(防錆など)
 - 6) 水洗水や使用済み剥離剤の処理方法
 - 7) 剥離設備導入後の更なる改善提案 など